



後期学校評価アンケート 結果と分析

令和5年3月10日

(HP用) 京都市立北総合支援学校

令和4年度 後期学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

令和5年1月19日(木)～1月31日(火)に実施した後期学校評価の結果と分析をお知らせします。結果を今後の教育活動に生かしてまいります。

◇ 分析・表示方法

- ・ 4つの選択肢(よくできている、大体できている、あまりできていない、できていない)の総数に対して、「よくできている」と「大体できている」を合わせた“肯定的な回答”の数値を、保護者・教職員・児童生徒や、各項目間で比較し、分析します
- ・ 成果や課題を把握しやすいように、90%以上を黄緑、80%未満は下線、60%未満は赤で表示します
- ・ 前期との比較のため、上段または左に前期を、前期より下がっている数値を四角で囲って表示します

0【全体】

◇ 対象者・回答率

	保護者			教職員	児童生徒		
	小	中	高		小	中	高
対象者数(人)	91	49	93	151	93	49	94
	233				236		
回答者数(人)	54	23	44	139	4	12	38
	121				54		
回答率(%)	59.3	46.9	47.3	前期 84.9→ 92.1	4.3	24.5	40.4
	前期 47.4→51.9			前期 22.3→22.9			

◇ 大項目内の平均値

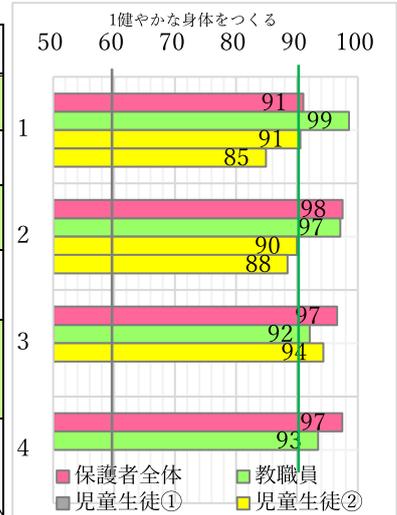
目指す児童生徒像	保護者		教職員		児童生徒	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1 健やかな身体をつくる	96	96	82	95	88	90
2 元気にあいさつをする	94	96	87	96	92	90
3 考え、工夫し、生き生きと表現する	95	95	82	97	93	95
4 願いや夢を持って心豊かに生きる	92	95	79	95	84	92
5 役割を担い、役に立とうとする	88	87	81	94	89	96
6 他者とともに生き、学び合う	89	90	80	94	91	96
(7 全体)	96	96	87	98		



- ・ 保護者・教職員・児童生徒とも回答率が上がりました。保護者の方には、回答をお願いするメールを実施期間中に数回送信することで、前期 47.4%だった回答率が、後期 51.9%に上昇しました。紙面での提出だった昨年度の回答率(前期 79.9%、後期 85.4%)には及びませんが、回答することが学校運営の改善、ひいては児童生徒の成長につながることを感じていただけるように、今後も取組を進めていきたいと思います。
- ・ 目指す児童生徒像ごとの大項目で見ると、保護者・教職員・児童生徒とも、どの項目もバランスよく肯定的な回答がありました。全体的に数値が上昇しましたが、教職員の数値の上昇幅が大きいです。

1【健やかな身体をつくる】

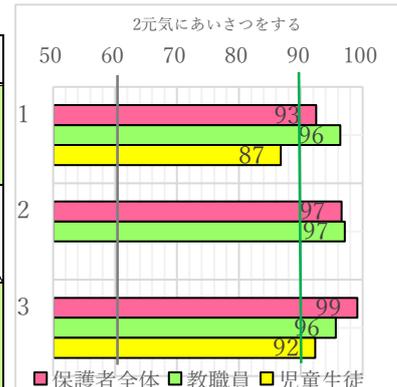
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、自分の身体や心を大切にしようとしている	①手洗いやうがいを毎日していますか	93 91			86 99	92 91
	②早ね早おきをしていますか	93 94	90 85	86 91		
2 学校は、健康維持や体力づくりに関する取組を十分に行なっている	③ランニングやからだの学習などで、健康なからだづくりをしていますか	96 98			79 97	91 90
	④不安な時やしんどい時に、自分のきもちをまわりの人に伝えていますか	96 98	100 95	86 98		
3 校内や教室は、清潔さ、衛生的である	⑤学校や教室のそうじやかたづけをしていますか	97 97			82 92	89 94
4 学校は、教材や備品の整理整頓、安全、事故防止に配慮している		97 98	95 91	100 98		



- 本校の健康に関する取組は、保護者は前期同様の高評価、教職員は前期より10%程高い評価でした。
- 校内環境整備に関する設問3・4に関連して、毎月の参観日アンケートで一部清掃が行き届いていない箇所のご指摘を受け、すぐに改善してきました。充実した授業づくりに教材・教具が増えがちですが、今後も、日常的に環境整備に取り組み、怪我防止・安全確保、視覚情報の整理につなげていきたいと考えます。
- 児童生徒も、全項目に比較的肯定的な評価です。設問⑤が5%上昇したことから、児童生徒自身が日々の清掃活動などに自信を深めている様子がうかがえます。
- 児童生徒の設問②④が他に比べて少し低い数値であることについて、学校運営協議会で「心理面の表出(設問④)は、誰にとっても難しい。障害や思春期の要素が加わり、低めの結果にならないか」「大人が本人のしんどさをよく見取り、適切に対応する必要がある」等と協議しました。今後も、身体面・心理面ともに健やかな身体づくりができるように、教職員の日々の関わりや各種取組を充実させていきたいと考えます。

2【元気にあいさつをする】

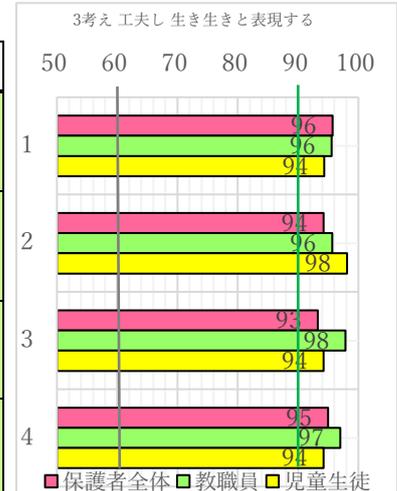
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、自分なりの方法であいさつをしている	①自分からあいさつをしていますか	90 93			87 96	91 87
		94 94	95 95	82 89		
2 学校は、児童生徒が自分なりの方法であいさつできるように取り組んでいる		94 97			87 97	
		100 100	95 95	86 93		
3 教職員は、適切な言葉遣いや態度で児童生徒・保護者・来校者に接している	②先生は、人にあいさつをしたりいねいにかかわったりしていますか	98 99			86 96	94 92
		100 100	90 95	100 100		



- 児童生徒は前期より少し下がっている項目もありますが、誤差の範囲内で、前期同様、全体的に高評価でした。教職員は、どの項目も前期より10%程上昇しています。
- 挨拶には、相手の存在に気付く力や、相手とコミュニケーションをとろうとする姿勢が必要です。今後も、教職員が挨拶をする姿を見せ、児童生徒に挨拶を促し、日常的にコミュニケーション力を高める取組を継続することで、児童生徒の発信する力や人と関わる力を高め、社会性の向上につなげていきたいと考えます。
- 教職員の言動に関する設問3も、高評価を得ています。毎月の参観日のアンケート(自由記述)にも、適切な言葉遣いや態度の教職員の姿を見て安心したというお声をいただいています。

3【考え、工夫し、生き生きと表現する】

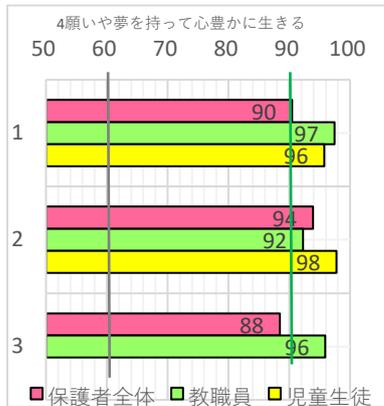
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教職員	児童生徒
		小	中	高		
1 児童生徒は、考え、工夫し、生き生きと学習に取り組んでいる	①学校の学習で「できた!」「やった!」とかんじますか	94 96			83 96	96 94
		94 98	95 95	94 93		
2 教職員は、児童生徒が考え、工夫し、生き生きと学習に取り組めるように授業や教材を工夫している	②先生はわかりやすく教えてくれますか	96 94			80 96	96 98
		98 100	95 87	94 91		
3 学校は、児童生徒が生き生きと主体的に取り組める授業や取組、行事を設定している	③学校生活は楽しいですか	94 93			82 98	92 94
		98 100	86 82	92 91		
4 教職員は、児童生徒の学習や取組の成果・努力を適切に評価している	④先生はがんばっていることやできたことをまとめてくれますか	95 95			83 97	89 94
		98 96	91 86	95 98		



- ・前期より少し下がった数値もありますが、大多数は誤差の範囲で、ほぼ全項目が90%を超える高評価でした。本校は、学校教育目標「自分から自分で自分らしくみんなとともに学び合う子どもの育成」のもと、「個別の包括支援プラン」に基づいて「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに取り組んでいます。特に、本年度の研究では、ICT活用でこれらに迫りました。日々の積み重ねで、児童生徒が「自分から自分で自分らしく」生き生きと活動しており、教職員の13～16%程の数値上昇は、その手ごたえの表れだと考えます。
- ・設問3の行事に関しては、行事時の保護者アンケートで、感染症対策の制限へのご意見が一つも、大多数は様々な工夫で活力ある行事ができたことへの好意的なご意見をいただきました。今後、感染症対策が緩和される見込みですが、引き続き基本的な感染症対策の徹底、活動形態や内容の工夫で、活力ある行事の運営に努めていきます。

4【願いや夢を持って心豊かに生きる】

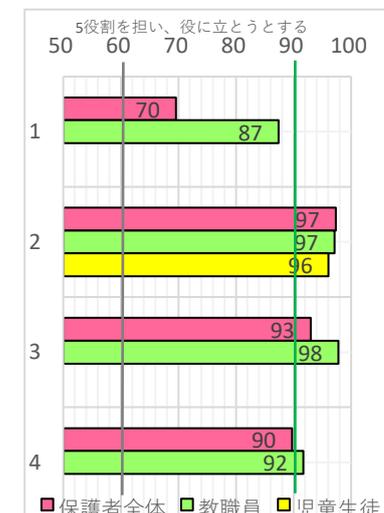
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			総計	種別
		小	中	高		
1 児童生徒は、願いや夢に向かって生き生きと学習している	①わからないときは自分から他の人にすすんで聞いていますか	84 90			81 94	87 88
		91 94	87 84	73 90		
2「個別の包括支援プラン」は、本人および保護者の「願い」「目指す姿」の実現を目指したものになっている	②学校生活は、なりたいたい自分になるために役にたっていますか	97 97			77 92	81 96
		98 96	95 95	97 100		
3 保護者、担任、授業担当で児童生徒の実態や目指す姿、学習内容を共有している		95 96			80 98	
		96 94	86 95	97 98		



- ・設問1は比較的高評価でした。ただ、前期同様、「分からない」と答えた保護者の方が一定数おられました（全回答者数に対して前期21%、後期13%）。学校運営協議会でもこの点が話題になりました。保護者の方が我が子を理解しにくい不安感から悩みを抱えている場合があること、それを学校だけでなく、行政や福祉等の多方面で支える必要があること、学校が多機関へのつなぎの役割を果たせるように常にアンテナをはっておくこと等に話題が及びました。今後も、学校は普段の児童生徒の姿・行動を丁寧に捉え、その情報を懇談会等で保護者とすり合わせることで、より本人の思いに沿った指導支援に努めたいと考えます。また、保護者の不安に多方面から寄り添えるように努めていきます。
- ・設問2の「個別の包括支援プラン」は、本人および保護者の願いや目指す姿の実現を目指して作られるものです。充実したプランを作成でき、それを基に日々の教育活動を充実させられれば、児童生徒の願いや夢がさらに広がっていきます。今後も、「個別の包括支援プラン」を基に、児童生徒が心豊かに生きる力を高められるように、取組を重ねたいと考えます。

5【役割を担い、役に立とうとする】

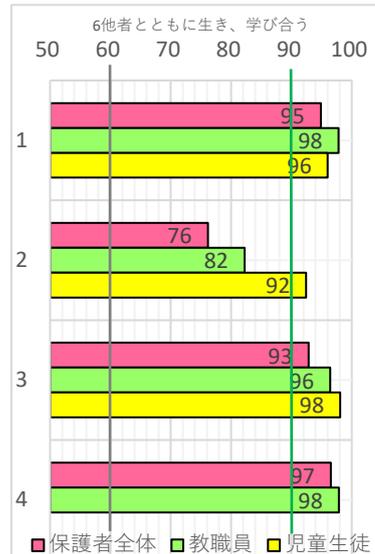
保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			総計	種別
		小	中	高		
1 児童生徒は、家庭で任された役割にやりがいを持って取り組んでいる		72 70			71 87	
		85 74	65 59	60 70		
2 児童生徒は、学校で任された役割にやりがいを持って取り組んでいる	①まかされたことにせきにんをもってとりこんでいますか	94 97			85 97	89 96
		98 98	100 100	86 95		
3 学校は、児童生徒が役割を担うことで自己有用感が高まるように活動の機会や場を設定している		93 93			88 98	
		96 94	90 85	91 95		
4 学校は、児童生徒の目指す将来の生活(進路)を見据えて、適切な指導および支援をしている		92 90			82 92	
		95 93	90 84	89 89		



- ・役割活動に関する設問1・2は、前期同様、保護者・教職員ともに“家庭の場”では少し低く、“学校の場”では比較的高くなりました。“学校”は児童生徒が役割に取り組む機会を設定しやすい一方、“家庭”は円滑な生活が優先で、リラックスの場であり、児童生徒に役割を任せにくいことが表れていると考えます。学校運営協議会では、子どもたちがご家庭で「役割」を担う意義が話題になりました。「ヤングケアラー」のように家庭での役割が本人の過度な負担となつては本末転倒ですが、家族の一員として「できること」で利他的に行動することは、達成感や成就感から自信や自立的な生活態度を培うことにつながります。今一度、本人の自立と社会参加に向けた各児童生徒にとっての役割の意義を考え、その内容や方法を検討できたらと思います。児童生徒自身は、設問①が前期より7%上昇しており、役割活動で自信を深めている様子です。
- ・進路指導に関する設問4は、昨年度と比較すると、前期同様高評価です。「進路だより」「進路ガイドブック」等での情報発信が有効だったと考えます。一方、自由記述には、「学校のワークスタディで身に付けた力が、進路先でも生かされるようなアドバイスがほしい」「卒業後に生活介護で過ごすだろう我が子の生活を考えると、生き甲斐の構築になるような、個々の身体及び知的に応じたカリキュラムを望む」というご意見もありました。個々の児童生徒が目指す将来の生活(進路)を見据えて、より適切な指導・支援に努めていきます。

6【他者ととも生き、学び合う】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教員	児童
		小	中	高		
1 児童生徒は、友だちに親しみを 持って、学校生活を送っている	①友だちとなかよく すごしていますか	94 95			87	87
		96 96	100 95	88 93	98	96
2 学校は、児童生徒の社会参加に 向けて、多様な人と関わる取組を設 定している(校内、地域、交流学習 及び共同学習)	②家族や友だ ち、先生を大切 にしていますか	77 76			71	94
		88 88	80 71	61 65	82	92
3 児童生徒は、きまりや約束を 守って学校生活を送っている	③きまりややくそく をまもっていますか	93 93			80	92
		98 100	89 85	89 88	96	98
4 学校は、児童生徒がルールや 約束を守ることの大切さを学べる ように指導している		93 97			84	
		96 100	89 95	92 93	98	



- ・設問1は、前期同様、3者とも高評価でした。多くの同世代と一緒に過ごす学校という環境で、児童生徒が自分なりに友だちに親しみをもって学校生活を送っていることが分かります。特に、①の児童生徒自身の数値が前期より9%上昇しており、友だちへの意識の高まりを感じます。
- ・一方、多様な人との関わりに関する設問2は、前期同様、比較的低い評価でした。感染症対策で校外学習等の機会に制限があることも一因と考えられます。保護者の自由記述には、今後の感染症対策の緩和に伴い、学部を越えた交流や地域での活動に期待する声が挙がりました。今後もICT機器を活用しつつ、コロナ禍で思うようにできなかった実際に人と関わる学習を進め、児童生徒の社会参加につなげていきたいと思います。

7【全体】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者全体			教員	児童
		小	中	高		
1 教職員は、本人・保護者の思いを受け止 め、誠実に対応している		95 96			88	
		96 96	90 91	97 98	99	
2 学校は、学年だよりや学校だより、学校ホ ムページ等を通して学校の様子を伝えている		96 97			87	
		98 98	91 91	97 98	98	



- ・この質問群は、「目指す児童生徒像」にこだわらず、学校全体について評価する項目になっています。
- ・設問1は、前期同様、保護者の方から高評価をいただきました。自由記述には「教職員が愛情をもって丁寧に関わってくださっている」「明るくて楽しい雰囲気や誠意ある教育活動で、大変ありがたい」「優しく思いやりのある先生ばかり」との声が多数いただきました。誠実な対応が教職員の負担になっていないかのお心配りまでいただいています。教職員自身も、99%に上昇した数値から、誠実な対応に努めていることが読み取れます。働き方改革が求められる昨今、効率化できる部分は精選しつつも、今後も誠実に前向きに本人・保護者の思いを受け止め、安心できる学校づくりをしていきたいと考えます。
- ・設問2の学校の様子の発信についても、前期同様、高評価でした。自由記述に「学校や進路のお便りの内容が具体的な記載が多く、楽しみに拝見している」という嬉しいご意見もいただいています。本校の児童生徒の実態から、学校側から保護者の方に具体的な学校生活の様子をお伝えすることが大切だと考えています。今後ますます広がるICTも活用しながら、情報発信と説明責任を適切に実行していきたいと考えます。